

令和6年度 勝浦中学校グランドデザイン

千葉県教育振興基本計画 基本理念
ちばの教育力で
「県民としての誇り」を高める！
「人間の強み」を伸ばす！
「世界とつながる人材」を育てる！

校訓『愛郷・立志』
学校教育目標 勝愛 未来 切拓
『ふるさと勝浦を愛し、未来を切り拓く生徒の育成』

勝浦市教育大綱 基本理念
『学び・絆 あふれる勝浦』

◎スローガン ・学校運営 “ Well-being ”、生徒・教職員の幸福感、そして、次代へ向かう勝浦中学校
・生徒会活動「煌」きらめく ① 集団生活の中で一人ひとりの個性が煌めく勝浦中学校
② 生徒一人ひとりの主体的な活動で煌めく勝浦中学校

めざす生徒像

変化の激しい社会の中でも、主体的に対応できる力「生きる力」を備えた生徒の育成を図ります。

- ・自分やまわりの人を大切にする生徒
- ・日々の気づきや学びを大切にする生徒
- ・根拠に基づいた自分の考えを持つ生徒
- ・自らの考えをもとに判断し、行動できる生徒
- ・自分を表現することができる生徒
- ・自分が決めたことに粘り強く取り組む生徒

めざす学校像

未来の国づくり・地域づくりを担う人材を育成するために、社会に開かれた教育課程の編成及び学校・保護者・地域が協働する学校を目指します。

- ・地域の特色や人材を生かした教育活動の充実
- ・保護者、地域と連携した安全・安心な学校づくりの推進
- ・生徒と教職員の信頼関係を基盤にした一体感のある学校づくりの推進
- ・郷土愛を醸成し、持続可能な社会づくりを生徒とともに考える学校づくり
- ・ウェルビーイング(Well-being)な学校づくりの推進

めざす教職員像

保護者、地域の信託を受け、生徒の自己実現を支援する教職員を目指します。

- ・愛情、情熱、使命感を持って教育活動にあたる教職員
- ・礼節を重んじ健康で活力のある教職員
- ・生徒理解に努め、生徒の成長を一番に考えた指導・支援を行う教職員
- ・授業力を向上させ、生徒に有益な教育活動を提供する教職員

学校運営のマネジメント・ Well-being な学校づくり 「19の柱・76の取組」

○組織マネジメント

- ・ビジョンや目標の明確化
- ・機動力のある学校づくりの推進
- ・チームビルディング “チーム学校” の構築

○カリキュラムマネジメント

- ・モジュール学習の弾力的運用
- ・社会に開かれた教育課程の推進

○安全・安心な学校づくり

- ・実践力を高める避難訓練の実施
- ・毎月1日の「防災の日」、毎月10日の「安全の日」の啓発活動
- ・地域と連携した交通安全指導
- ・勝中見守隊の運用開始
- ・PTAと連携した環境整備

○いじめ撲滅

- ・いじめ撲滅宣言の採択
- ・ハートリボン運動の実施検討
- ・「いじめ防止を考える日」の設定を検討
- ・校長講話(学年道徳)の実施
- ・初期対応フローの周知、徹底
- ・生活アンケートの工夫改善

○学力向上

- ・学力向上委員会の定期開催
- ・教科部会の充実
- ・教育実践プログラムの運用(研修)
- ・学習計画を立てて実行する力の育成
- ・授業と連携した家庭学習の充実
- ・全国学調、県標学の分析
- ・「学習や生活についてのアンケート」の活用

○生徒指導・教育相談の充実

- ・立腰ノートの運用(不適応等の未然防止)
- ・教育相談期間の設定
- ・SCIによる全員面接の実施
- ・あじさい教室(適応指導教室)の運用
- ・不適応、不登校生徒の支援
- ・生徒心得の見直し

○道徳教育・人権教育

- ・教職員、生徒の人権意識の向上
- ・教育活動全体での道徳性の育成
- ・家庭、地域との連携の検討

○特別活動

- ・SDGsへの取組の推進
- ・評議会と学級会の連携
- ・学校行事の目的の明確化
- ・「かつら元気プロジェクト」の推進

○特別支援教育

- ・合理的配慮への共通理解
- ・個別の支援を必要とする生徒の発達特性の理解
- ・ICTの利活用による学びの質的向上
- ・保護者、関係機関等の連携の推進

○体育・健康

- ・スポーツテストの実施時期の見直し
- ・食育の推進(郷育米の給食提供)
- ・いきいきちばっ子「元気アップ・プラン大作戦」コンクールへの参加
- ・給食委員会の昼の放送の実施(啓発活動)
- ・「学習や生活についてのアンケート」の活用

○ICT機器の活用の推進

- ・タブレットの活用機会を増やすための校内研修の実施

○特色ある教育活動の推進

- ・郷育プロジェクトの系統化
- ・かつら元気プロジェクトの取組の整理
- ・教育キャンプの実施

○キャリア教育

- ・教育活動全体を通して基礎的、汎用的能力の育成
- ・郷育プロジェクト(地場産業の体験)を通して職業観の育成
- ・職業人講話に係る内容の充実

○グローバル化への対応

- ・「めざす生徒像」を意識した基礎的な資質、能力の育成
- ・関東国際高校(留学生)との交流
- ・修学旅行先での外国人観光客への交流(インタビュー)

○学校運営協議会・地域学校協働活動事業

- ・事業計画の立案時期を年度当初に移行
- ・協働本部との実施計画等の共有化
- ・協働本部コーディネーターとの積極的な意見交換

○社会教育

- ・文化活動の充実(茶道、音楽等)
- ・家庭教育学級(保健分野)の開催
- ・平和学習の継続実施

○働き方改革の推進

- ・勤務時間の週ごとの実態把握
- ・学校行事等の整理、統合の検討
- ・特別委員会による具体的な取組の検討
- ・業務の最適化、平準化の推進
- ・校務支援システムの利活用
- ・通知表の記載内容の整理及び整備時期の見直し
- ・夏季休業中の教科部会、学年会議の実施

○適切な情報発信

- ・学校だより、ホームページの適時更新
- ・学年だより、学級通信の発行
- ・学校評価等の結果の公表

○部活動の地域連携

- ・部活動顧問のリクエストに沿った地域連携
- ・校長と部員との意見交換会の実施
- ・部活動サポーターの実施検討
- ・地域連携に係る顧問と外部指導の役割の明確化
- ・国際武道大学との連携

保護者・PTA・地域・関係機関と連帯・協働 + コミュニティスクール(学校運営協議会)・地域学校協働活動事業

令和6年度 学力向上に向けた取組

○研究主題 授業改善の視点「学びに向かう力の育成」
主体的な学びと学力を身につけさせる指導法の工夫・改善

○研究主題の理由

- ・学校運営スローガン “Well-being、生徒・教職員の幸福感、そして、次代へ向かう勝浦中学校
- ・教師の幸福感(やりがい):わかる授業の展開、生徒の成長を実感、指導方法や内容を学ぶ機会がある
- ・生徒の幸福感(自己成長・自己実現):授業での“わかった!!”、自分で深めよう・定着させよう!!
→生徒の学びに向かう力の向上(主体的な学び)

○研究の実践 「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムの活用、校内研修の充実
家庭学習の定着に向けた取組の推進

○千葉県教育委員会 東上総教育事務所 学力向上アクティブプラン

■指導方法の改善

①生徒の実態把握 ②授業改善の視点の明確化 ③「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践

■授業改善の視点

- ・思考を生み出し、粘り強く学びに向かう学びの調整を位置付けた授業構想
- ・自分の考えを根拠をもって説明することができる指導や発問の工夫
- ・学習の「まとめ」と「振り返り」は、自分の言葉で書く場面を設定 ※文字言語で振り返らせる

■授業の展開のポイント

- ・「見いだす」→ 生徒が明らかにしたくなる学習課題を設定したか
- ・「自分で取り組む」→ 生徒が自分の考えをもてるようにしたか
- ・「広げ深める」→ 生徒が相互に関わり合い、考えを深めるようにしたか
- ・「まとめあげる」→ 本時のねらいにせまる生徒の姿が見られたか

○各教科等の授業での取組の重点 ◆共通事項:学習課題(ねらい・目標等)を明確に提示する。

■国語

- ・付けさせたい資質・能力を明確にし、既習の内容や方法を振り返らせて適切に活用できるよう計画的に言語活動を設定する。
- ・生徒自身が自分の考えを互いに学び合い、思考を深める場面を設定し、自分の言葉でまとめあげる活動を継続して行う。

■社会

- ・ICTを活用した資料提示による発問に対して、自分の考えをまとめる取り組みを行う。
- ・小テスト、単元テストを継続して実施する。
- ・郷育プロジェクトと連携した教科横断的な授業を行う。

■数学

- ・実践モデルプログラムのサイクルを意識した授業づくりを進める。
- ・学び合いの場面を多く取り入れる。
- ・教科書やワークのページを具体的に提示し、生徒が主体的に復習をしていけるようにする。

■理科

- ・既習事項や生活上の経験から、生徒の疑問を引き出す。
- ・実験や考察において、タブレットを活用する。
- ・重要語句などの小テストや単元テストを継続的に実施する。
- ・郷育プロジェクトと連携した教科横断的な授業を行う。

■外国語

- ・生徒が学習課題を明確に見出して、見通しを持って授業に取り組めるよう工夫する。
- ・目的、場面、状況を設定し対話を意識した言語活動に取り組ませる。
- ・単元テストを継続して実施する。

■音楽

- ・作曲アプリ(カトカトーン)を用いた曲づくり(創作)を行う。
- ・合唱活動を年間通じて行う。
- ・鑑賞の題材においてICT機器を活用する。

■美術

- ・勝浦の特色や魅力を生かした題材を実践する。
- ・鑑賞の題材において、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けてICTの活用と授業方法の工夫をする。

■技術・家庭科

- ・作業内容の記録の取り方を工夫し、授業の振り返りで自己評価を行う。
- ・ワークシート等の記述を評価し、授業改善を図る。
- ・レポート作成でタブレットを活用する。

■保健体育

- ・体力テストの結果や実態をもとに、授業内容の工夫改善を行う。
- ・タブレットを活用して、動画撮影、結果分析、振り返り、まとめなどを行う。

■総合的な学習の時間

- ・モジュール学習の計画的・弾力的な実施を進める。
- ・郷育プロジェクトのと教科横断学習の系統化を図る。
- ・郷育プロジェクトの事後評価の実施する。

■道徳

- ・学習教材の精選を行う。
- ・多面的、多角的な見方を引き出す発問の工夫をする。
- ・授業記録を残し、指導と評価の一体化を図る。

■特別活動

- ・PDCAサイクルを生かし、「振り返り」「改善」「実践」を繰り返すことにより、生徒の願いを叶えるとともに成長につなげる。